

都市再生整備計画 事後評価書

平成30年 3月19日

地区の名称	戸塚区舞岡川周辺地区（第2期）			
交付の期間	平成24年度 ～ 平成28年度（5年間）	交付対象	横浜市	
計画の目標				

豊かな環境資源を活かしたまちづくり、誰もが暮らしやすい安全・安心のまちづくりを進める。

- ①緑地の保全や水辺広場の整備を行い、魅力ある水・緑環境づくりを進める。
- ②舞岡川沿いにプロムナードを整備し、歩行者ネットワークを拡充する。
- ③舞岡川の治水安全度を向上させる。

計画の成果目標（定量的指標）

緑地保全制度に指定することにより、緑の減少に歯止めをかけ、環境資源を保全する。（32.5ha→32.7ha）
舞岡川プロムナードの整備により、快適で利便性の高い歩行空間を拡充し、プロムナードへ歩行者を移行する。（0%→67%）
河川整備により舞岡川の流下能力を向上させ、治水安全度を向上させる。（10m3/秒→30m3/秒）

定量的指標の定義及び算定式

	定量的指標の現況値及び目標値			備考						
	当初現況値 (H23当初)	中間目標値	最終目標値 (H28末)							
① 樹林地の保全面積	32.5ha		32.7ha							
② プロムナードへの歩行者移行率	0%		67%							
③ 舞岡川の流下能力	10m3/秒		30m3/秒							
全体事業費	合計 (A+B+C)	2,257	A	2,257	B	-	C	-	効果促進事業費の割合 (A(提案分)+C) / (A+B+C)	0.0%

事後評価（中間評価）

○事後評価（中間評価）の実施体制、実施時期	
事後評価（中間評価）の実施体制	事後評価の実施時期 事後評価：平成28年度末時点
評価の透明性、客観性、公正さを確保するため、学識経験者を入れた評価を実施しました。	公表の方法 横浜市ホームページ

1. 交付対象事業の進捗状況

交付対象事業															
A1 基盤事業（社会資本整備総合交付金）															
番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接間接	事業者	要素となる事業名	事業内容 (延長・面積等)	市町村名	事業実施期間（年度）					全体事業費 (百万円)	備考
									H24	H25	H26	H27	H28		
12-A-3	道路	一般	横浜市	直接	横浜市	舞岡橋	舞岡橋架替拡幅	横浜市						61	地域自主戦略 交付金含む
12-A-3	公園	一般	横浜市	直接	横浜市	(仮称)舞岡緑地公園【舞岡町公園】	用地取得 7ha	横浜市						1,654	
12-A-3	河川	一般	横浜市	直接	横浜市	準用河川改修事業 準用河川舞岡川	護岸整備 L=243m	横浜市						402	地域自主戦略 交付金含む
12-A-3	地域生活 基盤施設	一般	横浜市	直接	横浜市	舞岡緑地整備事業	用地取得 0.6ha 一部整備工事	横浜市						130	
12-A-3	地域生活 基盤施設	一般	横浜市	直接	横浜市	舞岡川水辺広場整備事業	設計委託	横浜市						10	
12-A-3	高質空間 形成施設	一般	横浜市	直接	横浜市	舞岡川プロムナード整備事業	-	横浜市						0	
12-A-3	事業活用 調査	一般	横浜市	直接	横浜市	生物相等調査 舞岡川流域等	-	横浜市						0	提案事業
合計												2,257			

※交付対象事業については、できるだけ個別路線ごとに記載すること。

2. 事業効果の発現状況、目標値の達成状況

<p>I 定量的指標に関連する 交付対象事業の効果の発現状況</p>	<p>緑地整備事業の進捗により、市街地における緑地の保全が進んだ。 河川沿いのプロムナード整備が進まず、歩行空間の確保が図れなかった。 ネック部を河川改修したことで、治水安全度の向上が図られた。</p>			
--	---	--	--	--

<p>II 定量的指標の達成状況</p>	<p>指標①（樹林地の保全面積）</p>	<p>最終目標値</p>	<p>32.7ha</p>	<p>目標値と実績値に差が出た要因</p>	<p>緑地保全制度等により指定された樹林地の面積が想定以上のため。</p>
		<p>最終実績値</p>	<p>36.8ha</p>		
	<p>指標②（プロムナードへの歩行者移行率）</p>	<p>最終目標値</p>	<p>67%</p>	<p>目標値と実績値に差が出た要因</p>	
		<p>最終実績値</p>	<p>—</p>		
	<p>指標③（舞岡川の流下能力）</p>	<p>最終目標値</p>	<p>30m³/秒</p>	<p>目標値と実績値に差が出た要因</p>	
		<p>最終実績値</p>	<p>30m³/秒</p>		

<p>III 定量的指標以外の交付対象事業の効果の発現状況 (必要に応じて記述)</p>	<p>緑地保全制度による指定が進んだことで、貯留・涵養機能や生物多様性、防災・減災など、樹林地が持つ多様な機能が高まった。 低水路の整備や護岸に植生機能を持つブロックを活用するなど、多自然な河川環境の整備が進んだ。</p>			
--	---	--	--	--

3. 学識経験者の意見

指標①③については、事業効果があったものと認められます。
指標②については、事業未了ということですが、できるだけ早期に完成するよう着実な事業推進を期待します。

4. 特記事項（今後の方針等）

準用河川舞岡川の治水安全度の向上と河川沿いの歩行空間を確保するため、防災・安全交付金事業の総合流域防災事業で、引き続き上流部の護岸改修及び河川沿い通路の整備を推進し、事業の早期完成を目指します。